第９回ＪＲ肥薩線検討会議

日　時：令和６年１２月１３日（金）１５：３０～１６：０５
場　所：ホテル熊本テルサ　３階たい樹

【冒頭挨拶】
〇岡野次長（国交省）
　本年４月の第７回検討会議におきまして、熊本県とＪＲ九州との間で鉄道での復旧を目指すという方向性について合意がなされました。また、６月の第８回検討会議におきましては今年度末の最終合意に向けて、ロードマップについて認識を共有したところです。それを受けまして、復旧後の運営のあり方について、現在、熊本県とＪＲ九州との間で議論を深度化させていると承知しているところです。
　また、観光と日常利用についての具体的な取組みを検討するために、熊本県が中心となり、地元関係者の方々から成るプロジェクト推進ワーキンググループで１１月まで熱心にご議論いただいていると承知しています。本日は、そのワーキンググループでの議論の結果をまとめたアクションプランの素案が提示されると聞いています。
　本日の会合におきましても、年度末の最終合意に向けて、有意義な議論がなされることを期待しています。

〇亀崎副知事（熊本県）
　皆様年末のお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。前回６月の検討会議以降、地元の１２市町村と県とが中心となりまして、観光と日常利用について、「観光を軸とした日本一の地方創生モデル」、「マイレール意識の醸成による日常利用の創出」、これらを具体化するため、２つのプロジェクト推進ワーキンググループを立ち上げました。６月から１１月までの間に合計１７回の会議を開催いたしまして、復旧後のＪＲ肥薩線の持続可能性を高め、地域の未来を描くアクションプランの策定を進めて参りました。本日、素案ではございますが、地元の再生協議会での審議を経て提案させていただきたいということで、後ほど説明させていただきます。
　また、地元の機運醸成の取組みといたしまして、９月には早期復旧と復旧後の利活用を応援する場として、肥薩線サポーターズクラブを立ち上げました。また、１０月には大井川鐵道の鳥塚社長をお招きいたしまして、「ローカル鉄道愛を育む講演会」を人吉市において開催した。
　あわせて、人吉市では、この春惜しまれながら引退したＳＬ人吉をＪＲ九州か

ら無償で譲り受け、駅前において先月１８日から一般公開しているところです。
　これらの取組みにあたっては、国の皆様から多大なる支援を賜っております。この場を借りて深く御礼申し上げます。引き続き、県と地元市町村、そしてＪＲ九州と共に、一日でも早い肥薩線復旧を目指して、全力を尽くして参る所存です。皆様方のご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

－　熊本県から資料説明（資料１、資料２）－

【意見交換】
〇松下総合企画本部長（ＪＲ九州）
　本年４月に取り交わした基本合意書に基づいて、プロジェクト推進ワーキンググループ、あるいはＪＲ肥薩線再生協議会での議論を経て、今回、「ＪＲ肥薩線復興アクションプラン（素案）」をとりまとめていただき、関わられた皆様に改めて感謝申し上げます。
　まだ素案ということではございますが、このアクションプランについて現時点での当社の受け止め方と、更に深度化する必要があるのではないかと考える課題について申し上げます。
　まず受け止めでございますが、このアクションプランは、昨年度取りまとめられた「ＪＲ肥薩線復興方針」と、本年４月にお示しいただきました「肥薩線のマイレール意識醸成による日常利用創出について」に基づいて、施策の統合あるいは詳細化が行われており、基本合意書第２項、第３項に基づいて整理されたものと受け止めているところです。
　そして、改めて課題ということで申し上げさせていただくと、主に３点あると思っております。
　まず、各施策の費用をこれから記載していく必要があると考えております。現時点、各施策の具体的な初期費用や運営費用が記載されておりませんが、これについては最終合意までに整理する必要があると考えているところです。なお、当社に関わる費用負担については、発生する便益に応じて検討すべきものと考えており、負担額の多寡に関わらず慎重に検討していく必要があると考えております。
　次に、具体施策に挙がっている駅の再整備についてです。被災前から駅周辺に住んでいる方が非常に少ない、あるいはご利用者数が非常に少なかった駅もありました。こうしたことを考えますと、今後もご利用が見込みづらい駅もあるのではないかと思っているところです。復旧後の駅の維持管理費の低減や、効率的な二次交通整備などを行っていくためには、全ての駅の復旧が必要かどうかということなどについて、今後協議していく必要があると考えています。

最後ですが、施策の実現に向けた進捗管理方法についてです。資料には具体的な記載はございませんが、今後整理が必要になってくると考えています。各具体施策について、関係者それぞれが自分事として受け止めて責任をもって実施していくことが大切だと思いますし、それに加えて進捗をしっかりと管理をして、必要に応じて具体的な対策を講じていくという仕組み作りをする必要があると考えています。

なお、本資料に詳細が記載されていないその他の具体施策についても、今申し上げた内容と同様に考えているということと、現在２０３３年度を目標としている肥薩線復旧のタイミングについては、最終合意後の調査・設計等を経て精査した結果、復旧時期は前後する可能性があることは、併せて申し上げさせていただきます。

今回お示しいただいたアクションプランについては、まだ素案の段階ということですが、今後整理していく課題は多く、関係者でさらに議論を深めていく必要があると考えています。また、熊本県におかれては、基本合意書第１項・第４項の具体化に向けて、引き続き協議を進めさせていただければと思っています。

復旧する肥薩線がお客様に愛され、持続可能な路線となるように、引き続き協議の程、どうぞよろしくお願いします。

〇亀崎副知事（熊本県）

今、ＪＲ九州の松下常務から課題としてお示しいただいた３点について、現段階での県の考えを申し上げます。

まず、プランの実施に必要な費用の記載についてです。ご指摘のとおり実行性をしっかりと説明をするために、最終案までに整理する必要があると思っております。役割分担についても引き続き協議させていただきたいと思います。

次に、復旧後の駅の扱いについてです。災害復旧の原則というものは踏まえつつ、今ご意見をいただいた効率化、あるいは地元のまちづくりの観点を含めて、地元と丁寧に議論する必要があると思っています。引き続き連携の程よろしくお願いします。

最後に、進捗管理についてです。我々地元としても、プランは“絵に描いた餅”ではなく、達成に向けたプロセスを明確化し、評価検証する仕組みが重要と考えておりますので、最終案までにきちんと整理をさせていただきます。

その他、基本合意書に基づいたＪＲ九州との協議についても、引き続き誠実かつ真摯に進めて参りたいと思っています。

〇森田局長（九州地方整備局）

肥薩線の復旧復興ということで、関係の皆様が色々な課題がある中で前向き

に取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。
　私自身、元々熊本に勤務していて、熊本地震の対応をさせていただく中で、豊肥本線を復旧していただき、またその先の南阿蘇鉄道の復旧という経緯を外から見させていただき、個人的にはありがたいと思いながら過ごして参りました。その中で、令和２年７月豪雨によって球磨川が非常に厳しい状況で、ＪＲ肥薩線やくま川鉄道も被災していますが、関係機関が熱心に、そして前向きに復旧に向けてご議論いただいていることに感謝申し上げます。
　私自身、肥薩線にも乗車し、自転車に乗って地域を回っていました。ぜひ、皆様の粘り強い調整の中で、前向きに、この地域の求めるアウトプットが出ていってくれればと思います。
　今日お示しいただいたアクションプランの素案ですが、この実現のためにも、九州地方整備局としては、まずは早期復旧に向けた事業間連携をしっかりと調整を進めさせていただき、スピード感をもって取り組んで参りたいと思います。

〇原田局長（九州運輸局長）
　着任して以来、肥薩線を含めて地域公共交通が厳しい状況に置かれているということを日々感じています。鉄道はもちろん、バスも含めて、利用者が減っており、運転手が足りないという状況で、公共交通をこれからどうするかは、肥薩線に限らず、あらゆる地域で議論されているところです。
　共通して言えるのは、公共交通はあって当たり前ではなく、地域の大事な財産であります。これを地域の住民の方がしっかりと理解して、自分たちの大事な公共交通を自分たちが支えるのだと、そういう思いをもって、自分たちの地域で使う足を自分たちで守っていくという意識を熟成していくことが大事だと思います。
　今回、素晴らしいアクションプランを短期間でまとめていただき、驚きと敬意を表します。できるだけ色々な方々、沿線の住民の方々にも見ていただき、たとえば「自分たちではこれができる」というような、プランの中からできることに少しでもご協力いただくというような流れが出来ると良いというのが第一の感想です。
　もう一つ、住民の足であるというのは第一ですが、投資も含めて、肥薩線を使って色々な方に観光に来てもらうという観点も重要です。人吉に何度か行きましたが、青井阿蘇神社や球磨川、ＳＬ人吉も戻って参りましたが、リッチな観光コンテンツがあるということを感じたところです。これを人吉全体の観光パッケージとしてうまく集約し、それを日本人に、さらには外国の方々にまで発信していく。これは難しいことではありますが、どのようにお知らせして、実際に来てもらうか、これについて時間をかけて検討し、取り組んでいく必要があると思

います。
　これから２０３３年に向けて復旧ということですが、今後大公共事業になると思っています。住民の皆様の意識や、観光地としての磨き上げを、すこし時間をかけてしっかりやっていくことが大事だと思います。提示いただいた２０のプランの一つ一つを大事に、できる限り実現できるよう、力を合わせていくことが必要だと思います。九州運輸局としてもあらゆる面でご支援、ご協力していきたいと思います。

〇岡野次長（国交省）
　私自身、会議前に南阿蘇鉄道を視察させていただきましたが、復旧されて地域の力になっていることを目の当たりにしたところです。
　本日の会議では、熊本県からアクションプランの素案が示されました。充実した内容となっており、熊本県や関係者の皆様方の熱意を改めて感じたところです。まとめの方向性としてはこの方針で進めていくことで関係者と認識を一致することができ、大変有意義な議論であったと思っております。
　熊本県におかれては、次回検討会議に向け、本日の議論を踏まえて、更に議論の深度化・磨き上げを図っていただければと思います。
　復旧や復旧後の運営のあり方については、熊本県とＪＲ九州との間で調整が進められているという話がありました。関係する皆様方におかれては、次回検討会議に向けて、更なる調整を進めていただくようお願いします。
　機運醸成の取組みについても、地元と一体となった継続的な取組みをお願いします。
　国土交通省としては、今年度末の最終合意に向け、九州地方整備局、九州運輸局共にサポートして参りたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

〇事務局（国交省）
　最後に、ブリーフィングの内容についてご説明します。
　熊本県からアクションプラン素案について説明がなされました。まとめの方向性としては、この方針で進めていただくということで了承となりました。
　また、復旧や復旧後の運営のあり方についても引き続き調整が進められているとご報告がありました。こちらについてご報告いたします。